

# 阿賀浦コミ協だより

令和4年12月15日

広報第39号

阿賀浦コミュニティ協議会

## 坂口安吾生誕祭に荻野アンナさんの記念講演会実施 10月9日(日)

坂口安吾 生誕記念講演会

安吾アンナ話こんな話

講師 荻野アンナ 慶應義塾大学名誉教授

阿賀浦地区に於ける坂口安吾の足跡をたどりながら、その人となりに迫ります。

2022.10.9 (日) 13:30~15:00

阿賀浦第五中学校 体育館 300席

主催 阿賀浦コミュニティ協議会



一線御紹介

- ・新編 浮城物語
- ・フランス文学
- ・『浮城物語』と『浮城物語』
- ・『浮城物語』と『浮城物語』
- ・『浮城物語』と『浮城物語』
- ・『浮城物語』と『浮城物語』

9月20日(土) 420名 阿賀浦第五中学校 体育館  
 阿賀浦第五中学校 体育館 300席  
 主催 阿賀浦コミュニティ協議会

10月20日は、安吾生誕116回記念日で、阿賀浦コミュニティ協議会では、荻野アンナさんをお招きし、10月9日(日)第五中学校において記念講演会を行い約200名の方の出席がありました。

荻野アンナさんは、神奈川県生まれ、慶應義塾大学博士課程を修了その後ソルボンヌ大学博士課程を修了されています。

1991年「背負い水」で第105回芥川賞を受賞、2001年「ホラ吹きアンリの冒険」で読売文学賞受賞、2008年「蟹と彼と私」で伊藤整文学賞を受賞、近著には「老婦人マリアヌ鈴木の部屋」があります。

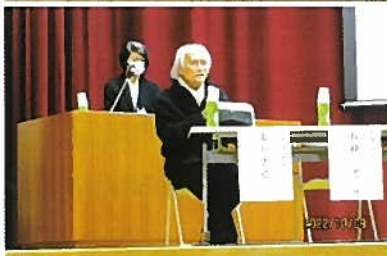
また、安吾に関する書籍としては、1992年「アイ・ラブ安吾」を執筆されています。

冒頭の自己紹介では、ご自分の赤い髪の毛を指して還暦のお祝いに髪を赤くして何年か経過しました、何年かは秘密ですと、観衆を引き込み、落語家の11代金原亭馬生に入門し二つ目「金原亭駒ん奈」で活躍されている一面を発揮されました。(以下講演内容抜粋)

安吾との出会いは、二度目のフランス留学時の1984年、偶然の出会い、月間「文芸春秋」の古い号が留学生の間を回ってきました。私の目を惹いたのは、文芸春秋のJTの広告ページ、たばこの宣伝で版画だか、イラストだかで、ピース缶が描かれており、缶の中では奇妙な人間がうごめいていました。そのページの一節が、坂口安吾の「白痴」でした。主人公が白痴の女と爆撃の下を逃げ惑い、ようやく一服して煙をふーっとはくという、その場面でした。

それだけなんです、何かこうピンとくるものがありました。日本に一時帰国した夏休みに坂口安吾の本を探しまわったのですがあまり手にはありませんでしたが、手に入れた本の中で決定的に安吾の世界にはまったのが、「日本文化私観」でした。日本に帰国後、図書館に行って次から次へと借り「とにかく安吾を全部読んでしまわなければ」という覚悟で読み続けました。なぜ、パリで安吾にはまったかと言うと、留学2年目、逆カルチャーショックの時期になっていました。フランスで日本の事を聞かれた時に答えられないのが情けない。日本の宗教、神道、お寺について聞かれた時が一番苦勞しました。また、日本人なんだからティー・セレモニーをやれと言われてました。日本に一時帰国時に飛行機の時間までの30分間に母親にお茶の立て方を教えろとお願いし最低限の動作だけ学習し、着物の替りに祖母の戦時中のモンペをスーツケースに入れました。とのこと。

ブルーノ・タウトの日本文化私観と安吾の日本文化私観については、難しい内容ですので別の機会に記載したいと思います。(筆者)



# 阿賀浦地区(大安寺)ゆかりの「坂口安吾のすべてを知る講座」 好評継続中

## 坂口安吾と坂口家を学ぶ

新潟市秋葉区の阿賀浦コミュニティ協議会では、今年度、阿賀浦地区(大安寺)ゆかりの著名な文豪「坂口安吾」を学び・知り・理解を深めるための講座を開催致します。講師には、地元新潟出身の著名な著月忠信先生をお招きし、10回にわたり講義を頂きます。また、安吾に豊富な知識をお持ちの特別講師もお招きする予定です。下記募集内容をご覧いただき、奮ってご参加ください。



### 《坂口安吾のすべてを知る講座》

場所：新潟地域学園 2F  
201 研修室 (階段教室)  
秋葉区新津東町 2-5-6

日時：第四土曜日 (原則)  
13:30~15:00



6月25日(土)に第1回目の「坂口家と坂口安吾を学ぶ」講座がスタートしました。継続して毎月1回講座を好評開催中です。

講座講師には地元新潟出身で安吾研究家の若月忠信先生を、お招きし講義を頂いております。

(以下、最近の講義内容より)



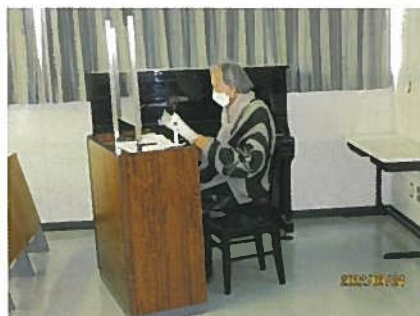
### 1) 第3回講座 (8月27日)

#### ＜坂口安吾の小中学校時代、風博士を読む＞

大正2年、新潟尋常高等小学校に入学する。受験のために出された調書には「性質敏活ニシテ熱心、真面目、頭脳明晰、操行優等、席次六十六番中三番」と記入されており新潟中学校へ百五十人中二十番で合格した。しかし安吾はここで人生初の挫折を体験する。

安吾挫折の要因には諸説ある。しだいに不登校となり学校裏の松林を抜けて海を見に行っていた。

短編の風博士では、論敵の蛸博士と対立する風博士は、蛸博士に妻を奪われ悲しみのあまり遺書を残して消える。その瞬間蛸博士はインフルエンザに冒される。安吾の文学は理解するのでは無く感じればよいと奥野健男は言う。



### 2) 第4回講座 (9月24日)

#### ＜松之山町の安吾碑と黒谷村を読む＞

大棟山美術博物館(旧村山邸)の裏山、ぶな林の中に安吾文学碑は建っている。碑の右手上方に安吾の肖像レリーフがはめ込まれている。中央の碑面には「黒谷村」(昭和6年)の一節「夏が来て、あのうらうらと浮く綿のような雲を見ると、山岳へ浸らずにはられない」が刻まれている。昭和62年(1987年)10月20日、安吾の誕生日に除幕された。安吾と松之山とのつながりは、最初父仁一郎の妹貞が造り酒屋の長男、村山政栄のところへ後妻として入り、次いで安吾の姉セキが政栄の長男真雄のところへ嫁いだことによる。安吾はこの地を安息の地として訪問し作品を残している。「黒谷村」「不連続殺人事件」など松之山を舞台にしている。愛飲の酒は「越の露」であった。

(若月忠信著 安吾の旅より引用)



## 史跡めぐりの旅

11月4日(金)阿賀浦コミュニティ協議会・文化  
教養部主催の史跡めぐりの旅が開催されました。各自  
治会から参加者を募り22名の方が参加しました。昨

年一昨年はコロナ禍と言うことで中止となり3年ぶりの開催となりました。

今回は、午前中に栗の木バイパス沿いの老舗、峰村醸造と今代司酒造を訪問見学し、昼食はピュア万代の港食堂で美味しい刺身定食を頂きました。午後からは、安吾風の館の学芸員、岩田さんの案内で坂口安吾ゆかりの場所を訪問見学しました。

### 1) 峰村醸造訪問

江戸時代、新潟は北前船の寄港地として海運が発達し、栗の木川沿いには多くの味噌や酒の醸造所がありました。近年栗の木川は暗渠となり、栗の木バイパスとなっております。

この地で日露戦争終結の明治38年今の沼垂の地で操業を開始したのが初代峰村仲蔵です。当時は、栗の木川兩岸に味噌の製造、造り酒屋、醤油の製造業等の醸造蔵が40余軒あり発酵の町として栄えました。(峰村醸造広報資料引用)



### 2) 今代司酒造訪問

創業は江戸時代1767年、当初は酒の卸し業や旅館業、飲食業を商いにしていました。江戸後期から明治初期の新潟は北前船が頻りに寄港し大変繁栄していました。酒造りに本格参入したのは明治中期以降できれいな阿賀野川の伏流水が出て海運に便利な栗の木川がありこの地に蔵を構えました。現在は越後菅名岳の天然水を用い良質な酒米をさらに吟味して造り上げる酒は、辛口の中にもしっかりとした旨みをもっており料理の美味しさを引き立てるとのことです。

純米酒をメインとしている蔵もまだ少ない新潟にあって2006年から、醸造用アルコールを添加しない、全量純米の特定名称酒のみに切り替えた今代司、純米酒ならではの米の旨みが生きた穏やかな香りの食中酒が揃っています。今代司酒造と言う社名は、今の時代を司ると言う意味でつけられた昔の銘柄が元になっています。常に時代と共に今の時代にあった酒とその楽しみ方を提供するのがコンセプトとのことです。お酒というものは人の生死において無くてはならないものではありませんがお酒を酌み交わすと言う行為を通じ人は心を通わせてきたのではないのでしょうか。(今代司酒造広報資料引用)



### 3) 護国神社安吾の碑（ふるさとは語ることなし）



寄居浜の護国神社表参道の脇、はげ山と呼ばれている丘の上に安吾碑があります。当時その場所から日本海が一望のもとに見渡せました。訪れた時は、日本海方向は木々に覆われており海は見えませんでした。

小説家、坂口安吾は明治39年10月20日に生まれています。終焉の地、群馬県桐生で昭和30年2月17日に亡くなりました。安吾が少年期に過ごしたこの地に昭和32年春、発起人・尾崎士郎の呼びかけで碑が建立されました。22.5トンの巨石は五頭山から切り出され当時日本製のトラックでは運べず、GHQのトラックで運んだそうです。碑文を彫る石工もこの地で巨石に足場や屋根をかけ、ここで碑文を彫ったとのこと。

当初台座は無かったのですが、巨石の重みと浜風の浸食で年々沈下していったので後に台座を付けたとのこと。

除幕式の当日は、浜風の強い初夏の一日で、尾崎士郎、檀一雄、坂口献吉、火野葦平、亀井勝一郎、池島信平などの参加もあり盛大に行われました。

3歳となった遺児綱男さんの引く幕がなかなか落ちず、風にはらはたと鳴っていたとのこと。

碑文の選定は檀一雄で、昭和29年10月、父母の法要のために帰省したおりに知人に依頼され書いたもの、3枚の連作の中の1枚、他の2枚は、「雪も新潟の雪は変に親切すぎる」「コタツはガサツで親切すぎてイヤなものだがあたらぬわけにもいかぬ悲しい新潟」

愛憎半ばする、ふるさとへの思いが語られている言葉ですが、「どうしても忘れられない新潟」が「ふるさとは語ることなし」にデフォルメされたようです。（若月忠信著 坂口安吾の旅より引用）

### 4) 安吾風の館



安吾風の館は、旧市長公舎で、第10代新潟市長として柴崎雪次郎氏（埼玉県出身）を迎えるにあたり建設され大正11年（1922年）10月竣工。当時の新聞記事は、この辺りは巨松の林に囲まれ、市の中心部を見下ろせる絶好の位置であると報じています。居住・執務、重要な来賓を招く場として使用されてきましたが戦後、市長は選挙で選ばれるようになり迎賓館的に使用されていましたが、平成21年（2009年）7月から安吾風の館として、遺品・所蔵資料を展示。



安吾風の館座敷で岩田学芸員による建物の構造や縁側から見える景色について解説を頂きました。

玄関から入って左側は洋風応接間、座敷（15畳、10畳）、待合室などの公的空間で構成。一方右側は市長の居室、台所、浴室など私的な空間となっていました。（私的な空間は非公開）

和風を主体として、脇に洋間を設けたユニークな構成ですが、造りは当時として質素なものという評価のようでした。政令指定都市・中核市レベルの都市で現存する戦前期の市長公舎はほとんどなく、現存最古のものと言えます。

また、平成4年に造られた庭園は、初代新潟奉行の川村修就の時代に植えられたと思われる松群を残し、海岸砂丘の面影を今に伝えるとともに、枯山水等の伝統的庭園様式と機能的な芝庭を巧みに調和させた新潟を代表する現代庭園の一つです。（安吾風の館 広報資料引用）

風の館、管内には、生原稿や、安吾の愛読書などが展示されていました。

安吾ゆかりの地、姉セキの嫁ぎ先、松之山や、終焉の地群馬県桐生市の写真が展示されていました。

桐生は亡くなるまでの3年間過ごした場所で、旧家織物買継商、書上商店の大きな部屋を借りて住んでいました。現在も建物と記念碑が残っています。

安吾風の館は、入館無料ですので、訪問されてみてはいかがでしょうか。（休館日、毎週 月、火曜日）

## 5) 安吾生誕碑（新潟大神宮）



安吾は、新潟市西大畑町で父仁一郎、母アサの五男として生まれました（本名は坂口炳五へいご、丙午の年に生まれた五男）。現在その地は、道路、駐車場となっております。隣の新潟大神宮の参道脇に安吾生誕碑があります。2006年10月20日、安吾生誕百年を記念して建てられました。

**「私のふるさとの家は空と、海と、砂と、松林で  
あった。そして吹く風であり、風の音であった」**

自伝小説、石の思い（昭和21年）の一文が刻まれています。

# 秋季フロアカーリング大会

(11月6日阿賀小学校体育館)

11月6日(日)阿賀浦コミュニティ協議会・スポーツ部主催の秋季フロアカーリング大会が行われました。早川会長の挨拶に続き、ストレッチ体操を行い競技が開催されました。

A、Bの2コートに分かれ、一次リーグは総当たり戦で行われ、その後トーナメント戦で順位が決まりました。前は6チームの参加でしたが、今回は8チームの参加があり競技は盛り上がりました。毎週欠かさず練習しているチームや、競技の時に初めてストーンを投げる人など、技量の差はありましたが、楽しい時間を過ごしました。

会の運営にあたりスタッフの皆様の尽力に御礼申し上げます。来春のフロアカーリング大会にさらに多くのチームが参加することを期待致しております。競技結果は、下記のとおりです。

- 優勝**：新金沢町和楽
- 2位**：大安寺チームDAJ
- 3位**：東町ゆめグループ
- 4位**：中新田                      **5位**：東町シニア東
- 6位**：東金沢老友会      **7位**：新金沢町舞花
- 8位**：多国籍軍(混成チーム)



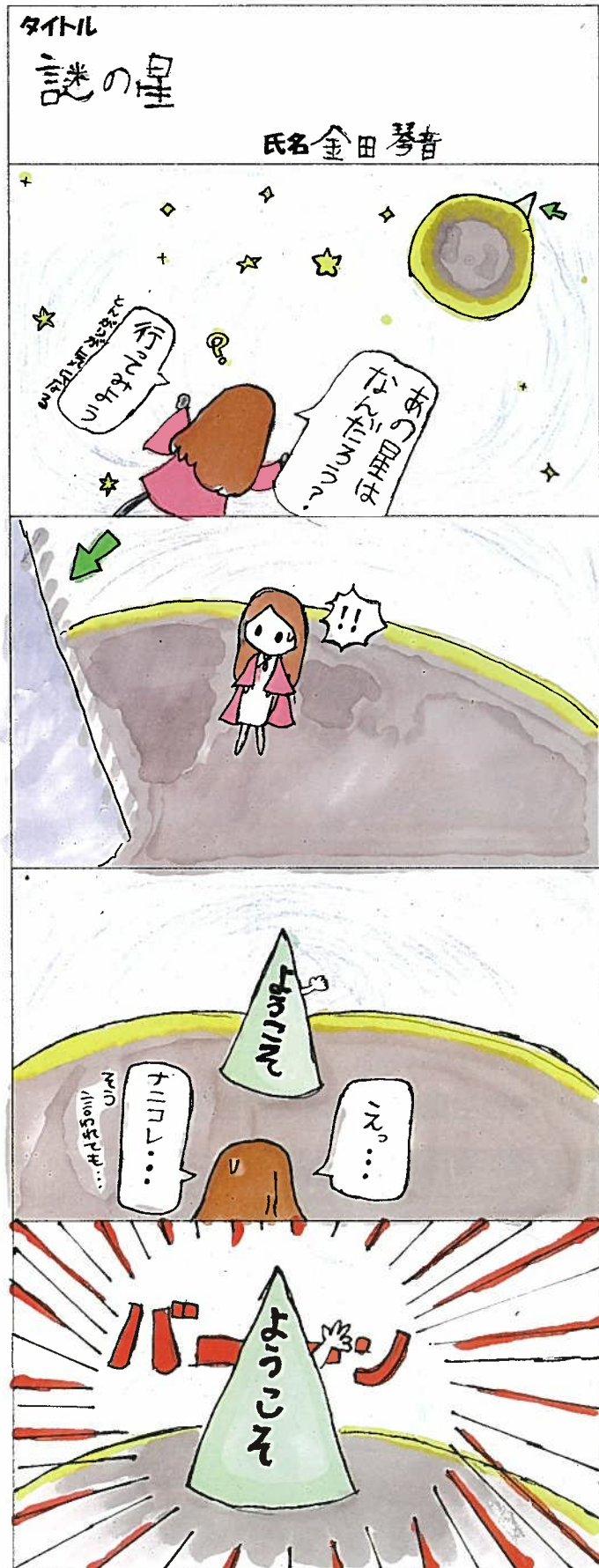
会長挨拶

ストレッチ体操

競技遠景

優勝チーム

# 阿賀小学校4コマ漫画

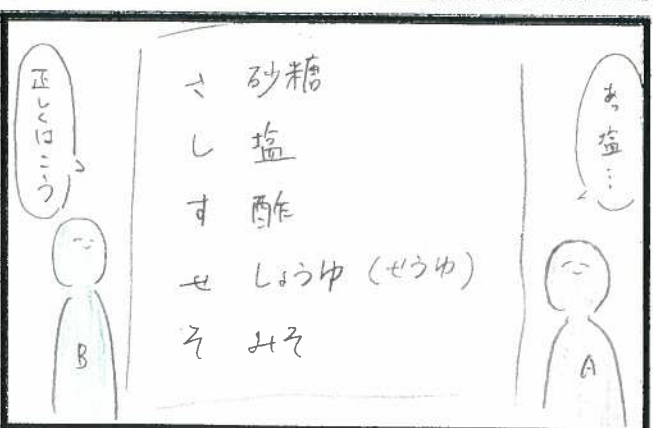


タイトル

謎の星

氏名 金田 琴音

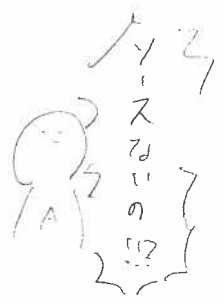
# 調味料のさしすせそ



## 第五中学校4コマ漫画

2年3組 氏名 渡邊 茉那

- A 的 さしすせそ
- さ 砂糖
- し しょうゆ
- す 酢
- せ セミ
- そ ソース



### 編集後記

阿賀小・五中の皆さん4コマ漫画の協力で感謝申し上げます。

おかげさまで『コミ協だより』に楽しさが加わってます。

阿賀小さんに依頼当初、日常生活の中でクスツと笑えるようにと伝えました。

五中さんには日常生活の中でオヤジギャグ的に伝えました。

作品は期待どおりであります。

五中の茉那さんの『調味料のサシスセソ』は登場人物AとBが噛み合わないところ。

AもBもセに該当する調味料が思いつかない。

Aの「せ・・・」をセミと勘違いしている。

Bは「せうゆ」と醤油を強引にセに使っています。

Bは尚も強引にソを「味ソ(味噌)」と押し込んでいきます。

Aはソースを想定していたのに・・・

楽しい学校生活が伺えます。

次号の作品を楽しみにしています。

阿賀小の琴音さんの『謎の惑星』は編集会議を困惑させました。

琴音さんの狙いにギブアップです。

四つの絵はどれも色使いが上手です。

立体感があって素晴らしいです。

主人公の洋服もオシャレですね。

「ようこそ」の後ろの『バーン!!』は強烈ですね。本当の狙いはナニ・・・？

## にいつベン講座

### ～ オヤジギャグを楽しむ～

#### 4コマ漫画編パート1

「いや～4コマ漫画、おもっしえかったね。」

「ほんね、よー出来てた、てばね。」

「コミ協だよりにはアッタラモダンね。」

「新潟日報に載せてもろてばね。」

「オメさん、行ってきなせ。」

「オラ、ショシだわね。」



#### 4コマ漫画編パート2

「オメさん、琴音ちゃんの漫画の内容、わかったかね。」

「どーしょばて、よーわからねかった。」

「しかも考えたドモ・・・」：「鹿と一緒に考えたんかね。」

「ひゃんでことユンね。」

「オメさん、五泉のショだか？」

